

ALOS 画像データの現状と今後への展望

ALOS: Image Quality and the future view

島田 政信 [1]; 磯口 治 [2]; 宮城 洋介 [3]

Masanobu Shimada[1]; Osamu Isoguchi[2]; Yosuke Miyagi[3]

[1] なし; [2] 宇宙航空研究開発機構; [3] JAXA/EORC

[1] EORC, JAXA; [2] EORC/JAXA; [3] JAXA/EORC

本稿は2006年1月24日に打ち上げられたALOSの校正検証結果としてPALSAR, AVNIR-2, PRISMのそれぞれのセンサの目標と達成度について整理する。センサ毎に多少の差異はあるものの、非常に高い精度を達成しているのが現状であり、これら3センサを使用しての地球観測は非常に有効である。更に、これらのセンサデータを用いて進めるEORCの科学プログラムを紹介する。一つは、京都炭素プロジェクトであり、地殻変動マッピング、南極マッピングである。これらは、大陸規模での植生マッピングを実施するものであり、現在未知数の多い森林炭素量の解明に貢献できる。更に、地殻変動は主として、日本列島全域、千島列島にわたる変動、南極域はInternational Polar Yearの活動とも関連する。